

仏像のX線CT調査で金属製「五臓」を発見

福岡県立アジア文化交流センター 主任研究員 楠井隆志

科学研究費助成事業(科研費)

文化財用大型X線CTによる九州所在木彫像の内部構造解析
(2007-2008 基盤研究(C))

X線CTによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析
(2010-2011 基盤研究(C))

九州国立博物館開館5周年記念特別展「黄檗-OBaku 京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」(2011)を開催。

出品文化財のうち、聖福寺(長崎市)所蔵の木造釈迦如来坐像(中国・清時代 17世紀制作 像高148.5cm)についてX線CT調査を実施。

像内に金属製五臓(全長約17cm)をはじめ六腑、仏舎利、仏牙、喉仏、せき髄、はらわたなどに見立てた異材質製納入品の存在を確認。

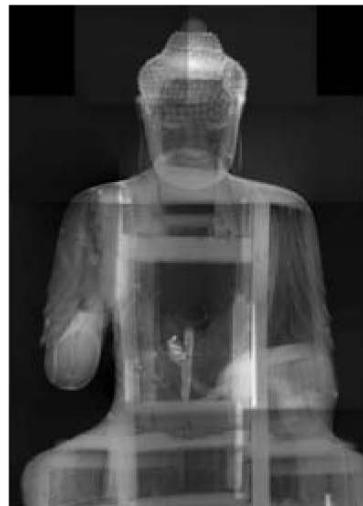
仏像の像内から金属製五臓が発見されたのは国内外で5例目。未解体で三次元的に確認できたのは世界初。

五臓六腑などの納入状況が具体的に確認でき、中国製木彫仏の内部構造や仏像観を知るための貴重な発見。美術史研究だけでなく、東洋医学思想史研究の分野からも注目を集めている。

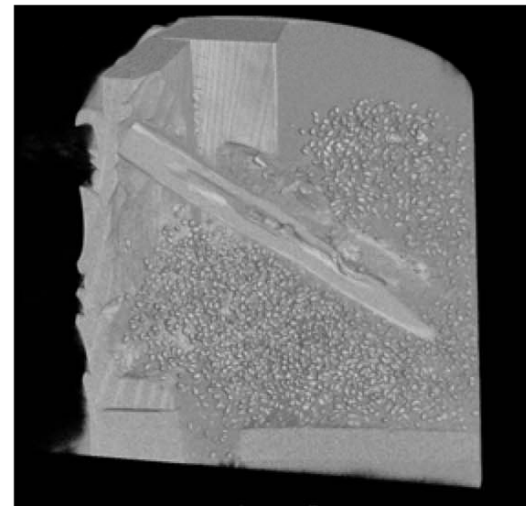
三次元プリンタを用いて金属製五臓の立体模型を製作。形状把握に役立てるとともに、所蔵者への説明時や地元での調査報告講演会でも利用。現在は聖福寺で展示中。



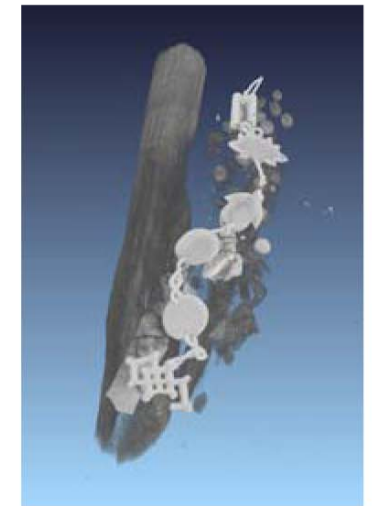
聖福寺釈迦如来坐像とX線CTスキャン装置



X線透過写真



像内腹部の五臓六腑の三次元画像



金属製五臓の三次元画像